

## 1. 基本理念

神経学的疾患は、そのほとんどが正確な病歴の聴取と神経学的診察によって局在診断と病態診断が可能である。臨床神経学の長い歴史の中で確立されたこれらの基本的な診察能力の重要性は、MRIをはじめとする画像診断や臨床検査が進歩した今日においてもいささかも減じていない。

北野病院脳神経内科における臨床研修では、神経学的疾患を診断し治療方針を立てる上で必要な①病歴の聴取、②神経学的診察法、③画像診断、④電気生理検査法を経験・習得することを目指している。

## 2. プログラムの目的

- ① 脳神経内科診療を通じて、中枢・末梢神経系の生理・病理を理解する。
- ② 指導医の下で脳神経内科入院患者の主治医となり、診断・検査・治療を担当し、基本的な診療過程の進めかたを理解する。
- ③ 問題対応能力を習得する。
- ④ 医療現場における安全の考え方を学び、医療事故、院内感染対策に積極的に取り組み、安全管理の考え方を身に付ける。

## 3. 脳神経内科研修の到達目標

### (1) 一般目標

- ① 病歴の聴取:多くの脳神経疾患は患者の病歴を正確に問診することによってその局在診断と病態診断が可能である。研修の初期段階においては、正しい診断につながるような病歴聴取法を習得することを目標とする。
- ② 神経学的診察:病歴にもとづいて立てた局在診断を確認するために、基本的な神経学的診察能力を獲得する。
- ③ 画像検査の読影:担当患者だけではなく、毎週の画像カンファレンスを通じて脳脊髄の画像診断力をつける。
- ④ 電気生理検査の解析:脳波、末梢神経伝導速度検査、骨格筋針筋電図検査の意義の理解と判読習得する。

### (2) 行動目標

- ① 指導医によるマンツーマン指導のもとに患者を5-10名受け持ち、脳神経内科の基本的知識と技術を学ぶ。厚生労働省の到達目標のうち、一般目標、基本診察法、基本検査法、基本治療法、末期医療、患者・家族関係、医療メンバー、文書記録、診療計画・評価、ターミナルケアなどに関し研修する。脳血管障害や神経変性疾患、内科的疾患に伴う神経症状の診断と治療が中心となる。
- ② 脳神経内科の専門的な研修に加えて内科研修医あるいは脳神経内科第一期研修医の指導にあたることもある。さらに指導医の指導のもとに臨床研修指導医の指導のもとに病棟勤務および外来勤務にあたる。病棟では10名前後の患者を受け持ち、指導医の指導のもとに検査、治療方針を決定する。週に1ないし2回脳神経内科外来診療にあたる。主に病棟で担当していた患者の退院後の診療および新患者の診療にあたる。
- ③ 究に従事し、論文作成にあたる。また学会発表を行う。

### (3) 経験目標

① 頻度の高い症状

頭痛、めまい、ふらつき、視力障害、複視、構音障害、脱力、麻痺、筋力低下、しびれ、振戦、歩行障害、痙攣、意識消失

② 緊急を要する症状・病態

意識障害、急性発症の頭痛、筋力低下

③ 経験が求められる疾患・病態

脳血管障害、頭痛の鑑別診断、めまいの鑑別診断、パーキンソン病

選択研修にて2回目にローテーションをする際は、専攻医に準じてより専門的な診断の手技・手法、より高度な治療方法の習得を目指す。

## 4. 研修指導体制

日々の指導は原則として日本脳神経内科学会認定医が1ないし2名の研修医を担当し、指導する。各入院患者には1名の指導医と1名の研修医が割り当てられる。

指導責任者：北野病院脳神経内科主任部長 金子 鋭 指導者 6名

## 5. 週間スケジュール

- 勤務時間：原則として午前8時から午後5時までである。実際には午後5時以降も勤務することがある。病院当直ある

★脳神経内科週間予定				
	8:00-9:00	9:30-12:00	13:00-16:00	17:00-18:00
月	新患紹介、回診			
火				
水	SCU カンファレンス、回診		筋電図	
木				脳波カンファレンス
金			回診 新患紹介、カンファレンス	
土				

いは脳神経内科宅直が週に1、2回ある。  
● 教育に関する行事あり

エンターション：研修開始の最初の数日間で院内諸規定、諸設備の概要、健康保険制度、医事法規などにつき指導を受ける。

- 緊急症の講義：研修開始の数ヶ月間で各種緊急症に関する講義、実習を受ける。
- 部長回診：毎週3回行い、ベッドサイドで各患者の問題点につき検討する。
- 症例検討会：おもに研修医が担当する興味深い症例の検討会を全ての脳神経内科医師の出席のもとに毎週1回行う。
- 退院カンファレンス：毎月1回行う。

- 電気生理学的検査(脳波、筋電図、各種誘発電位検査):指導医の指導のもとに研修医は毎週数回実技実習を行う。
- 特別講義:毎月あるいは隔月に1回外部講師が神経学、神経科学に関連した講義を行う。脳神経内科医師が全員参加する。

## 6.脳神経内科研修の到達度評価

脳神経内科部長、病舎主任、指導医により評価を受ける。研修医は自己評価を行う。

研修医は当科の研修プログラムを評価する

## 7.診療科における研修の特徴

脳神経内科臨床医の養成を目的とし、脳神経内科全般にわたる幅広い臨床経験を獲得する臨床研修プログラムである。

研修修了時には脳神経内科学会専門医試験受験の能力に達することが期待される。